

麦類の生産工程管理マニュアルの改訂

―かび毒汚染低減のための生産工程管理技術の高度化―

技術の特徴

- ・麦類赤かび病のかび毒(デオキシニバレノール・ニバレノール)を対象に、麦類の栽培・防除指導のポイントとなる、作付け前から、播種、防除、収穫、調製等の各生産工程における汚染防止・低減対策等を取りまとめたマニュアルを改訂しました。
- ・改訂したマニュアルによって麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理技術の高度化が図れます。

研究の内容

- ・平成20年12月に作成した「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル」の全項目について改訂し、内容を追加、大幅拡充しました(図)。

実施時期	実施すべき取り組み	低減効果
播種前	前作の作物残渣など伝染源の除去	低
	トウモロコシの後作は回避(一部地域のみ)	中
播種	かび毒蓄積性が低い品種を選択	高
	推奨される栽植密度の順守	低
	作期の前進など登熟・収穫期の雨害の回避(一部地域のみ)	中
生育期	適切な肥培管理等による倒伏防止	中
出穂期 開花期	かび毒汚染を防止・低減する効果の高い薬剤の選択	高
	開花期予測システム、気象情報等の活用	高
	赤かび病の適期防除の実施	高
	追加防除の実施(必要に応じて)	高
	同一系統の薬剤の連用の回避	低
収穫期	適期収穫の徹底	高
	赤かび病被害麦の仕分け収穫の徹底	高
乾燥 調製	収穫後は速やかに乾燥	中
	乾燥調製施設における赤かび病被害麦の仕分けの徹底	高
	粒厚選別や比重選別などによる被害粒の選別	高

図. 麦類の生産工程におけるかび毒汚染を防止・低減するために実施すべき取り組みとその効果
赤字は追加、大幅拡充したことを示す。

今後の展開

- ・研究が進展し新たな知見が得られたらアップデートしていく予定です。

参 考

Yoshida, M. et al. (2012) Plant Disease 96: 845-851. 宮坂 篤ら. (2013) 九病虫研会報 59: 1-6.
URL: <http://www.naro.affrc.go.jp/> (掲載予定)



農研機構
九州沖縄農業研究センター



代表研究者: 宮坂 篤
所 属: 生産環境研究領域
病害研究グループ

〒861-1192 熊本県合志市須屋2421

問い合わせ先: 096-242-7729 atsushim@affrc.go.jp